

氏名	小 谷 利 一
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 162 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和41年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	所謂 Banti 氏病の鉄代謝に関する研究 第1編 所謂 Banti 氏病に於ける赤芽球の鉄代謝について 第2編 所謂 Banti 氏病に於ける臓器の鉄代謝について
論 文 審 査 委 員	教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

バンチ氏病における鉄代謝を追及する目的で、先づ Siderobiast 及び Radioautography の検索により、骨髓赤芽球における鉄の態度について検索を行った。バンチ氏病患者においては、Sideroblast による赤芽球の鉄顆粒の出現状態は健康人に比し、可成りの低値を示し、これに対し、Radioautography による invitro における赤芽球の放射性鉄摂取は健康人に比し、著明に亢進した。治療後即ち、剔脾後、鉄剤経口投与並に鉄剤静脈内投与の場合においては Radioautography による赤芽球の放射性鉄摂取は明らかに減少した。バンチ氏病患者の治療前後における赤芽球平均可染性鉄顆粒数と赤芽球平均放射性鉄出現度との間に負の相関が認められた。

次に患者血清注射並に患者脾エキス注射家兎における鉄代謝状況を放射性鉄の静脈内投与により検索した処、対照に比し、肝、脾、骨髓に増加を認め、鉄分劃測定では、主として P I、P II に増加を認め、又患者脾エキス注射家兎に放射性鉄を経口投与した場合、臓器内分布では対照との間に大差を認めないか、或は少々軽度の減少傾向を認め、更に腹部交感神経脾臓枝の切断による脾機能亢進家兎でも、略々同様の傾向を認めた。即ち、バンチ氏病の貧血及至骨髓赤芽球の鉄欠乏状態の成因には肝、脾、等臓器への鉄の抑留作用と同時に腸管からの吸収障礙が存在するものと考えられる。

岡山医学会雑誌 第77巻10, 11; 12合併号 昭和40年12月31日掲載

論文審査の結果の要旨

小谷利一提出の「所謂 Banti 氏病の鉄代謝に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

バンチ氏病における鉄代謝を追求する目的で、先づ Sideroblast 及び Radioautography の検索により、骨髓赤芽球における鉄の態度について検索を行っている。バンチ氏病患者においては Sideroblast による赤芽球の鉄顆粒の出現状態は健康人に比し可成りの低値を示し、これに対し Radioautography による invitro における赤芽球の放射性鉄摂取は健康人に比し著明に亢進したことを認めている。治療後即ち剔脾後、鉄剤経口投与後並に鉄剤静脈内投与の場合においては、Radioautography による赤芽球の放射性鉄摂取は明らかに減少したことを認めている。

次に患者血清注射並に患者脾エキス注射家兎における鉄代謝状況を放射性鉄の静脈内投与により検索した処、対照に比し、肝、脾、骨髓に増加を認め、鉄分割測定では主として、P I、P II に増加を認めており、又患者脾エキス注射家兎に放射性鉄を、経口投与した場合、臓器内分布では対照との間に大差を認めないか、或は少々軽度の減少傾向を認めており、更に腹部交感神経脾臓枝の切断による脾機能亢進家兎でも、略々同様の傾向を認めている。即ちバンチ氏病の貧血及至骨髓赤芽球の鉄欠乏状態の成因には肝、脾等臓器への鉄抑留作用と同時に腸管からの吸収障害が存在することを推定している。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。